

2018年度「平和カンパ」活動報告書

◆事業名： 難民のトルコ語学習支援

◆事業の背景と目的：

シリア危機の長期化が明らかとなった2013年以降、トルコに居住するシリア難民のトルコ語習得の重要性が認識され、トルコ行政および支援団体がトルコ語教室を提供してきているが、いまだにその支援は十分とは言えない。このことは、シリア難民と地域コミュニティのトルコ人との間のコミュニケーション不足の大きな要因となっており、ひいてはシリア難民と地域コミュニティとの間の緊張を高めることにつながっている。また、トルコの公立学校に通う難民の子どもたちの中には、トルコ語が十分理解できないため授業についていくことができず不登校になったりトルコ人からいじめを受けたりする子どもたちが存在する。シリア危機のさらなる長期化が確実な状況の中、トルコ国内での定住そして教育機会の活用・拡大のために、シリア難民にとってトルコ語習得の必要性はさらに高まっている。

◆活動の概要と成果：

1-1. 現状

当会は以前コミュニティセンターの活動の一環として、難民に対するトルコ語教室を行ってきたが、トルコ行政の政策により、支援団体によるトルコ語教育が規制されたため中止せざるを得なくなった。今回、パルシステム東京「平和カンパ」からの支援を受け、民間のトルコ語学校での難民のトルコ語講座受講料を提供する活動を実施した。

2019年4月19日時点において、50人がトルコ語教室に通学している（子ども：24名、大人：26名）。受益者の選定は、①初級程度のトルコ語力があること②十分な学習意欲があること、という2点を考慮して行った。まず1点目については自己申告及び入学前テストによって、トルコ語力が、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）内で「基礎段階の言語使用者」に該当するAレベルであることを確認した。2点目については、参加を希望する理由や学んだトルコ語をどのように就学や就職、生活に活かしていきたいか作文を提出してもらい、確認した。

本事業におけるトルコ語の授業は、文法の習得よりも、実践的な会話力の向上に重点を置いた、当会受益者用の特別なカリキュラムを用いている。トルコにおいてトルコ語の学習は文法を中心に行われることが多いが、過去に当会が実施したトルコ語学習支援事業の中で、文法を中心とした授業では実際の生活の改善に役立たないとして通学を止める事例が発生していたため、カリキュラムを変更した。

受益者からは「2年間トルコに住んでいたが、トルコ語が全く話せなかったのが恥ずかしいと感じていた。今では基本的な会話ができるので、外出が楽しくなった」、「（当会が運営している）コミュニティセンターでトルコ人の友達と会話ができるようになった」などと日常生活でのコミュニケーションが向上したというコメントを得ている。

1-2. 今後の予定

上述の50名は、2019年5月中旬に修了する予定である。修了時には試験を実施し、事業開始時と比較しどの程度トルコ語力が向上したのか確認する。終了後は、通学した全受益者に対してヒ

アリングを実施し、授業内容や本事業全体などについての改善点を聞き取るとともに、より良い就学や就業の機会に結びついているか確認する。これらを踏まえ、本事業内にて2019年6月から8月にかけて通学する受益者（25名程度を予定）の対応に活かしていく。



授業中熱心にメモを取っている様子  
(2019年4月撮影)

トルコ語教室での授業風景  
(2019年4月撮影)